

中山間地における小学校防災教育を通じた防災意識向上に関する実践的研究 ～岡崎市常磐東小学校区を事例として～

愛知工業大学 学生会員 ○岡田佳亮
愛知工業大学 正会員 小池則満

1. はじめに

近年、局地的な豪雨による、水害や土砂災害への増加が懸念されており、大学と地域が協力して、防災力・防災意識の向上をはかる取り組みがなされている¹⁾。また将来の防災リーダーの育成も不可欠な要素であり、小中学校での防災教育をいかに地域に展開していくかが課題と言える。

本研究では大学生による同行登校を皮切りに、地域の防災マップ作り、アンケート調査、防災発表会による地域への展開を小学校、地域と連携して行った。一連の実践的活動を通じて地域防災の改善がどのように行われたか検証することを目的とする。

2. 常磐東学区概要

研究対象地域として、愛知県岡崎市の常磐東小学校を取りあげる。常磐東小学校は、平成 26 年度の児童数が 51 名と小規模な小学校である。常磐東学区は、愛知県岡崎市の北西部に位置し県道 477 号が学区の主要な道路であり、それに沿って青木川が流れている。学区内の面積約 1500ha、人口は約 1300 人である。

岡崎市には土砂災害警戒区域が 192 か所、土砂災害特別警戒区域が 166 か所あるが、そのうちの土砂災害警戒区域 42 か所、土砂災害特別警戒区域 37 か所は常磐東学区にあり、土砂災害の危険度が高い地域である。

3. 調査方法

本研究では、平成 25 年度 5 年生 11 名を対象に防災教育の参与観察を開始した。表 - 1 に児童の防災教育の内容や児童の防災教育に影響を受け、地域がどのような活動したか記す。なお、本研究では 2013/9/2～2014/2/20 の期間を一期、2014/6/13 までの期間を二期、2014/8/31 までの期間を三期と分類して考察する。

一期は揺籃期と位置づけられる。シェイクアウト訓練をきっかけに同行登校による「気づき」、手作り防災マップ作り等の実施。児童は防災に関心を高め、独自に防災情報看板の設置や学内発表会を行った。

また、学内発表会の中で児童が公衆電話の設置を提案した。これにより地域に新しい公衆電話の設置が決まった。

表 - 1 参代観察による小学校・地域の動き一覧

実施日	小 学 校	地 域	活動の詳細
2013/9/2	○		全校児童対象にシェイクアウト訓練実施。防災学習へのきっかけとなる
11/13	○	○	大学生との同行登校による通学路の危険箇所調査を実施
11 月中	○		児童が学区の危険個所に防災情報を記入した看板(ゆるキャラ看板)を設置
11/19	○		同行登校の結果を白地図に記入、手作り防災マップを作成
2014/1/21	○		手作り防災マップを e コミに入力、学校のホームページより公開した。
2/20	○	○	学内発表会を実施。他学年を対象に防災学習の成果発表した。
3 月中	○		授業で防災倉庫の見学を実施。
3 月～5 月		○	学内発表会を受け、学区に 5 台の公衆電話の設置が完了した。
5/8		○	学内発表会を観覧した米河内町総代が児童と共に町の防災マップを作成したいと依頼
5/10		○	消防団と地域総代により 8 月 31 日の防災訓練にて児童の防災発表を企画。
5/30		○	豊田市等順寺を訪問。昭和 7 年 7 月の岡崎豪雨についてヒアリング調査を実施
6/2		○	米河内町防災マップ作成を岡崎市に申し入れ。
6/13	○		児童が地域の実情を探るべく、大学と連携し、アンケートを作成
6/14		○	米河内町役員 6 名によるマップ作りグループが発足し防災マップ作りが始まる。
6/20	○	○	6 月 13 日に作成したアンケートを各組長に展開し、アンケート調査を実施。
6/27		○	市役所にて防災訓練の打ち合わせ。児童の防災発表会を実施することが正式決定した。
7/15		○	米河内町の危険箇所調査を全三回実施
7/17	○		6 月 20 日に実施したアンケート調査結果を大学が報告。アンケート集計は児童も参加
8/9		○	防災訓練の要綱が完成。回覧板等で児童の発表会の実施の旨を伝え、参加を促す。
8/21	○	○	広島土砂災害と地形、地質がよく似ていることから取材が入った。児童も取材に応じた
8/31	○	○	地域総合防災訓練にて、住民に防災学習の成果を発表した。その後、参加者に意識調査を実施。

二期は萌芽期と位置づけられる。児童の発案により、地域の防災への関心を調べるアンケートを作成した。また、児童の活動に刺激され、地域が活動を開始し、過去の災害調査が実施された。学区住民にも防災への関心を促すべく、地域総合防災訓練の通常の要綱に加え、児童による防災発表会の実施を検討するなどの活動がみられた。

三期は発展期と位置づけられる。地域は本格的に防災マップの作成に乗り出し、2015年3月までに完成、全戸配布を目指し活動を開始した。児童は、2014/6/20 アンケート調査を実施。その結果から地域の問題を洗い出し、地域総合防災訓練にて防災学習発表会を実施した。

4. アンケート調査結果

1) 2013年3月実施アンケート

平成25年度の防災教育や同行登校に対する意見をうかがうために全校保護者対象にアンケート調査を実施した。配布数52件、回収数37件、回収率71.2%であった。同行登校のような防災学習を継続して行うべきか回答結果を図-1に示す。約70%もの保護者が防災学習に賛同し、他のテーマを優先すべきと回答したのは0%で保護者の関心の高さがうかがえた。

2) 2014年6月20日実施アンケート

地域の実情を探るべく、回覧板によるアンケート調査を実施した。配布、回収は回覧板を通じて行った。対象は学区全戸、配布442件、回収324件、回収率72.0%であった。避難場所・避難経路の決定している住民はわずか約13%と避難に対する意識は必ずしも高くないことが伺えた。

3) 2014年8月31日実施アンケート

岡崎市地域総合防災訓練参加者(常磐東学区)を対象とした意識調査を実施した。アンケート用紙を会場内で配布、回収した。配布数247件、回収数239件、回収率97.2%であった。「年代」と「防災情報看板の認知度」についての回答結果を図-3に示す。10代以下、70歳以上の5割以上が防災情報看板を内容まで読んだことがあると回答したが、20代～50代、60代の看板の既読者は約3割と高くない。20代～50代では約4割が看板の存在を知らず、読んでは

おらず、地域の関心の低さが伺える。

以上のアンケート結果を通じ、今後の活動として災害リスクを地域全体へ伝えること、具体的な避難経路を書きこめるような防災マップを配布することが提案されるに至っている。

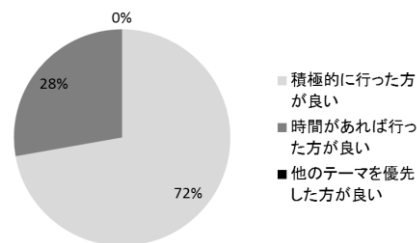


図-1 防災学習への賛否の回答

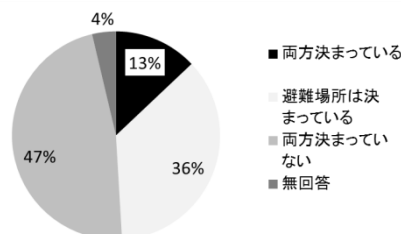


図-2 避難場所・避難経路の決定の回答結果

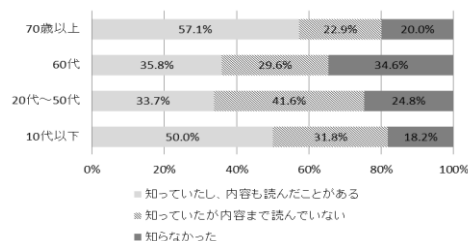


図-3 年齢における防災情報看板の認知度

5. まとめ

一連の活動を通じて児童が「地域の防災リーダーになりたい」との意識を持つに至り、地域が児童の防災教育に影響され、地域が防災マップの作成や公衆電話を設置するなど、具体的な取り組みが小学校から地域に広がっていく過程を参与観察することが出来た。

こうした活動をいかに継続・発展させるかが今後の課題である。

参考文献

- 1) 山本文彦：水害に対する地域防災力向上を目指したリスクコミュニケーションの実践的研究，自然科学，pp.25-48，2008。